

宗教と開発

途上国における持続可能な開発への貢献



NPO法人ワールド・ビジョン・ジャパン
長下部 穰
OSAKABE Yuuka

現代社会における宗教の役割とは何か。私は神学校時代にミャンマーの孤児院を訪れたことなどをきっかけに、キリスト者として世界や社会の問題にどう貢献できるのかを人生の問いとしてきました。研究を進めると、思いのほか、これまで宗教に否定的であった分野の研究者たちが、こぞってその役割を肯定的に捉え直している状況が見え、一層、関心を深めました。博士課程修了後、「研究と実践の両現場に」と思い叩いた国際NGOの扉でしたが、その働きを通してまた、この問いへの関心を新たにしています。

現代社会における宗教の役割をめぐる議論に新たな地平を開いた最も重要な人物として、ドイツの哲学者J・ハーバーマスを挙げないわけにはいきません。自由民主主義の最も重要な要素である自由な討議を止める「カンパセーショ

ン・ストッパー」として宗教を語っていた彼は、のちに、善悪（何が正しく、間違っているか）の議論への関心や、その議論を自由に行う能力を失いつつあるポストモダン社会を救うのは宗教だと論じ始めます。

もちろん、プライベートでは無神論者であった彼が「回心」したわけではありませんし、宗教が世を救うと考えていたわけではありません。彼は、善悪の真理を探究する宗教の性質に注目し、宗教が現代の闇から社会を救出するロールモデルとなり得ると主張したのでした。彼は、そのような社会を「ポスト世俗化社会」と呼びました。

彼によれば、私たちもまた、ポスト世俗化社会に生きています。宗教は益か害かの二元論的議論から、益であるならば何なのかという問いのシフトを経験する社会です。そして、開発における宗教の役割に関する問い立てもまた、ポ

や「宗教リーダー」、「宗教心（信仰）」などを含む「宗教」への関心が高まっているのです。

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づき世界の子どものために活動する国際NGOで、その主たる開発目標は、貧困の原因となる子どもの環境の改善による子どもの健やかな成長（well-being）の向上です。この開発目標の達成のために様々なステークホルダーと連携していますが、ワールド・ビジョンは、地域の人々の最も身近で暮らしている宗教リーダーとの連携を強みの一つとしており、彼らとの連携を戦略的に組み込んだ事業モデルを展開する団体として、世界のNGOの先頭に立つて、その意義と効果を世に発表してきました。

Channels of Hope（COH）は、その事業モデルの一つです。現地コミュニティには、子どもたちの健やかな成長を脅かす、解決すべき問題が複数存在します。例えば、ジェンダーに基づく暴力などです。現地政府やワールド・ビジョンのような支援団体はコミュニティに対して様々な方法で解決策を提示しますが、どのような方法を試しても解決につながらないケースが多くあります。この原因を調べていくと、前述の課題を助長するような価値観や慣習が地域に存在し、それらが政府や支援団体の活動の効果を浸透を妨げている状況が見えてきました。例えば、ジェンダーに基づく暴力の防止を妨げている価値観の一つとして見えてきたのは、男性優位の考え方です。途上国では、人々の価

値観や慣習の形成に最も大きな影響を与えているのは宗教リーダーである場合が多いため、COHは、活動実施のカギとなる宗教リーダーの積極的関与を促進することで、地域全体に行動変容をもたらすことを目指します。

具体的には、COHでは、宗教リーダーに対して、科学的事実に基づく正確な情報と共に、彼らの信仰する宗教の聖典や伝統的慣習に基づいて、どのようにこの課題に対応する方がよいのかを考える機会を提供する研修やワークショップを行います。研修を受けた宗教リーダーは、それぞれのコミュニティに戻り、今度のような研修を実施します。これらの機会を通して、信仰共同体が、地域の弱い立場に置かれている人のサポート・ネットワークとして機能するよう支援します。教義の布教や転換を迫るものではなく、あくまで宗教リーダーたちが自分たちの宗教のテキストを重要な社会問題に適用することを促すものであることも、COHの重要なポイントです。

ワールド・ビジョンは、地域の価値観や慣習に最も関連の深い地域の課題のうち、HIV/AIDS・エボラ出血熱・母子保健・ジェンダーに基づく暴力・子どもの保護の5つの分野で、宗教リーダーとの連携を通じ、地域全体の行動変容の寄与を試みてきました。

例えば、ジェンダーに基づく暴力が社会問題となっていたソロモン諸島では、人口の9割に

上が信仰するキリスト教に注目し、そのリーダーと連携して、男女の身体的違いに関する知識、そして聖書が描く男女の関係性について考える機会を提供しました。その結果、2013年から2015年にかけて、男性優位の考え方に反対する人の割合は、59%から79%に向上しました。また、イスラム圏のバングラデシュでは、長らく子どもの尊厳や地域の貧困の負のサイクルの原因の一つとなっていた児童婚の問題に対してCOHを実施し、少しずつその効果が表れています。

宗教リーダーとの連携、地域住民の倫理的拠り所である聖典を題材とすることなどを通して、地域住民の参加や心の深いレベルでの行動変容を促し、ワールド・ビジョンがその地域を去った後でも自らの力で支えることのできる土壌が形成されています。

現代社会における宗教の役割とは何か。宗教が生活の身近にあるわけではない日本という国での暮らしが長い学生にとっては、この問いの答えを具体的にイメージすることは難しいようです。大学の講義で途上国の例について話をすると、学生の多くは驚きを表します。そのような小さな驚きを通して、キリスト教精神に基づいた教育機関で学ぶことが、グローバル社会で活躍する上で必ず役に立つと信じていますし、そのような学生の中から、貧困や紛争などの困難にある人々に深い意味で寄り添える人材が創出されることもまた、願って止みません。